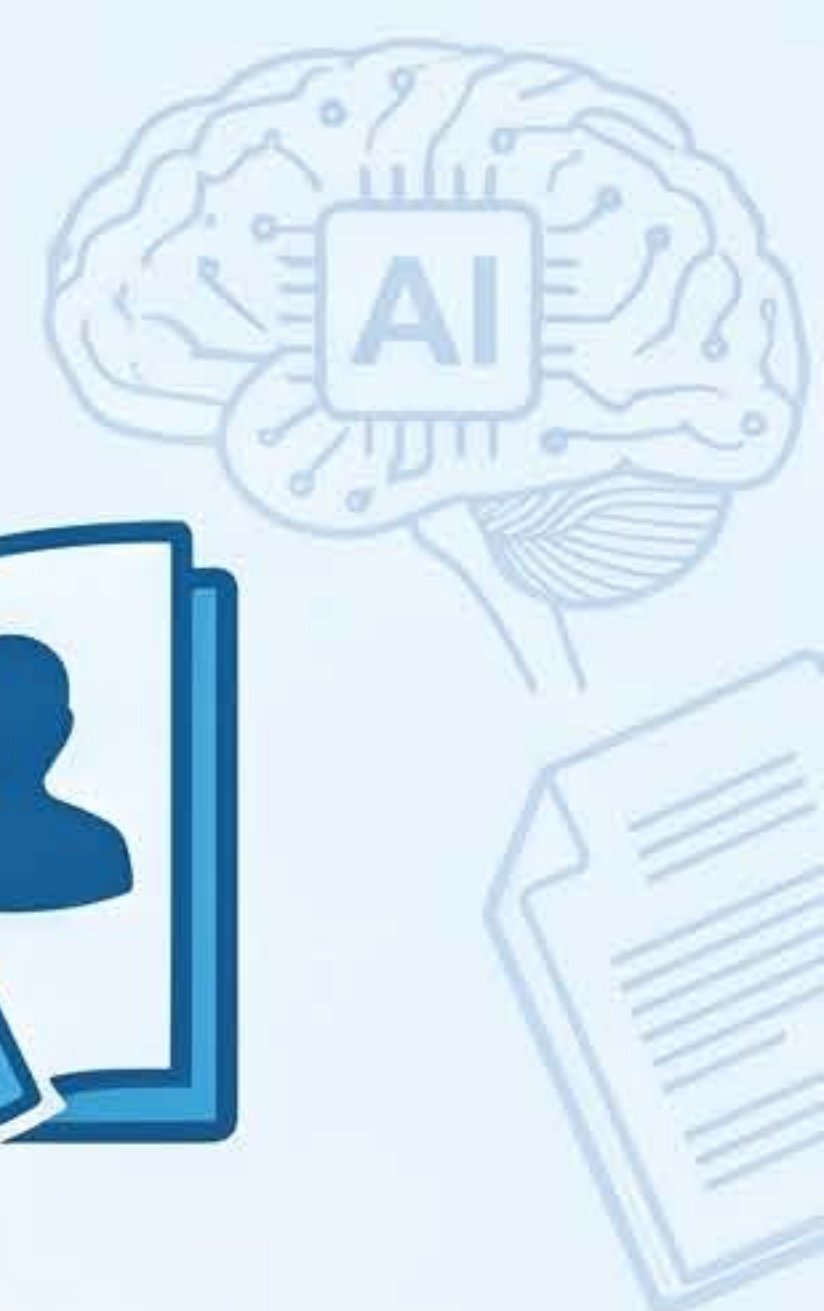
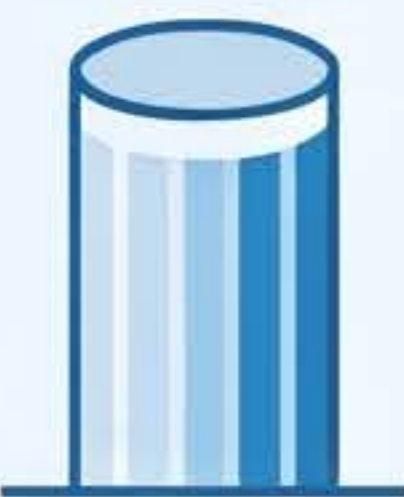


# AI共著論文の夜明け：日本生物物理学会の挑戦と学術出版の変革



## 厳格禁止

大手出版社がAIの著者資格を否定。



AIの著者性：厳格に禁止（全面拒否）  
査読での利用：厳密に禁止（機密保持）  
開示の性質：自己申告による明記

## グローバル基準（拒絶）

主要な出版基準におけるAIの扱い



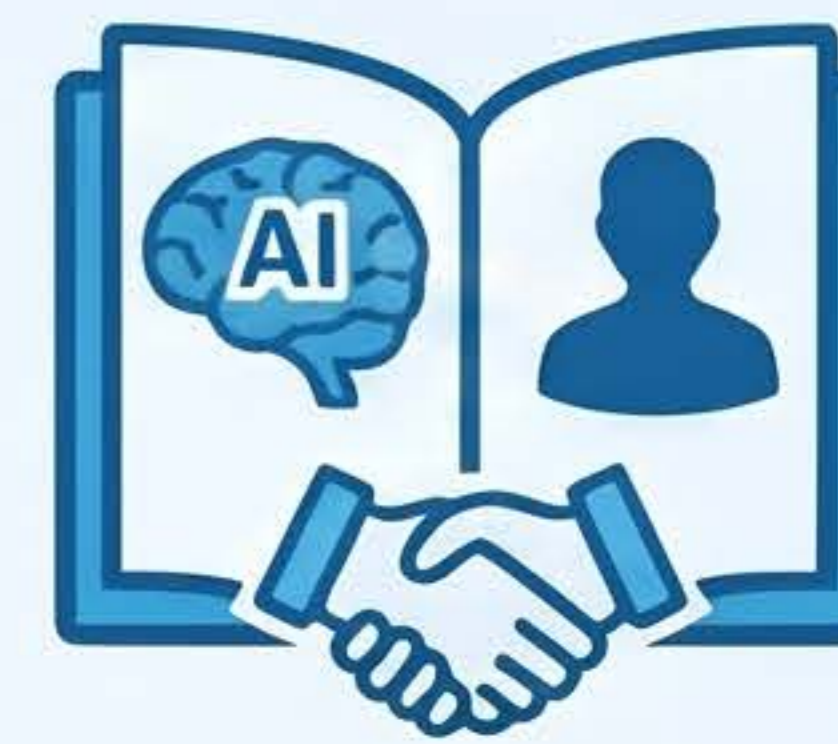
主要グローバル出版社（2026年）  
AIの著者性：厳格に禁止（全面拒否）  
査読での利用：厳密に禁止（機密保持）  
開示の性質：自己申告による明記

## BSJの新方針（受容）

主要な出版基準におけるAIの扱い



BSJ 新ジャーナル構想  
AIの著者性：共著者として承認（役割分担）  
査読での利用：補助への活用を前提（技術検証）  
開示の性質：透明化・前提化（公式なクレジット）



## 透明化

人間が代表、AIは共著者と役割を明示。



AIの著者性：共著者として承認（役割分担）  
査読での利用：補助への活用を前提（技術検証）  
開示の性質：透明化・前提化（公式なクレジット）

## 5カ年計画：2026年度に「仮想編集室」を設置

2026年度  
本年度の  
技術検証

5年後  
オンライン  
専門誌創刊

本年度の技術検証を経て、5年後のオンライン専門誌創刊を目指す漸進的アプローチです。



## メリット：研究の透明性と「言語の壁」の打破

AI関与を隠蔽せず公開することで再現性を高め、非英語圏の研究者をエンパワーメントします。



## 人間は「研究統括者（PI）」としての役割へ

AIに推論を導かせ、最終的な「認識論的責任」を負うマネジメント能力が人間に求められます。



## 懸念：循環的検証とハルシネーションの汚染

AIが書いた論文をAIが査読する「閉じたループ」や、架空の引用による情報の汚染が懸念されます。

